

## 令和 2 年度国立大学図書館協会賞審査結果報告

1. 応募区分 : 図書館活動における功績
2. 対象者 : 京都大学図書館機構オープンアクセス推進プロジェクトチーム
3. 件名 : オープンアクセス推進基盤の構築と展開：「京都大学図書館機構オープンアクセス推進事業」の取り組み
4. 結果 : 採択
5. 理由 : 本件は、京都大学図書館機構（以下、京都大学）が、機関リポジトリによる研究成果のオープン化とデジタルアーカイブによる所蔵資料のオープン化の両面から、オープンアクセス化を実現した取り組みである。

京都大学は「京都大学学術情報リポジトリ KURENAI」(以下、KURENAI)においては、「リポジトリ登録システム」を構築して基盤整備を行い、2015年にオープンアクセス方針を採択後、2016年－2021年度の6か年計画のアクションプランをたて、計画的にオープンアクセス事業に取り組み、それまでの紀要論文中心のアーカイブから学術雑誌論文のセルフアーカイブへと転換を図るモデルを示している。その結果、「世界リポジトリランキング(機関リポジトリ部門)」で2019年に第4位にランクされ高評価を得ていることは特筆される。

「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ」においては、2017年にいち早く国際規格 IIF を適用したシステムを構築・公開するだけでなく、同年度には公開画像の自由利用原則を実現し、2018年には他機関との共同による「富士川文庫デジタル連携プロジェクト(デジタル富士川)」サイトを立ち上げ、また同年に京都市と連携した「二条城中井家絵図・書類(二条城関係資料)」の公開、翌2019年には「韓国高麗大学等と連携した韓国古文献(韓本)の調査及び改題及びデジタルイメージの構築に関する事業」等、学外との連携事業によって、IIFによる画像公開が利用者にもたらす利点を提示している。また、二次利用を容易にする条件の改訂はコンテンツの利用可能性をさらに広げるものとなっている。加えて、当該デジタルアーカイブおよび KURENAI においてメタデータの英文化・ローマ字化も行っており、コンテンツの国際流通性促進や社会貢献事業の観点から高く評価できる。

さらに、実施体制としてプロジェクトチームを組織し、課題遂行等を通じての人材育成に努めていることに加えて、成果を公表することで国内の他大学の図書館職員にも情報を提供し、全国の図書館活動全体の底上げにもつながっている。

以上のことから、本件は図書館活動において顕著な意義を有するものと認められ、「国立大学図書館協会賞選考基準」第4条第1項の各号に該当するものとして国立大学図書館協会賞に推薦する。今後もその先導的な事業が活発に展開され、後続の大学の参考となることを期待する。